



東近江市が誕生(2005年)



東近江大橋が開通(2005年)



百済寺境内が国史跡に指定(2008年)



国道421号石樽トンネルが開通(2011年)

本市と三重県の境界に位置する「石樽峠」を越える国道421号は、冬季になると積雪の影響で通行止めになっていましたが、本トンネルの開通によって安定的な交通網が確保され、中京圏との交流増加につながっています。



# 東近江市 20年のあゆみ

## 2005 (平成17年)

- 2月11日 八日市市・永源寺町・五個荘町・愛東町・湖東町が合併し、東近江市が誕生
- 2月27日 初代市長に中村功一氏が就任
- 12月17日 東近江大橋が開通

## 2006 (平成18年)

- 1月1日 東近江市・能登川町・蒲生町が合併
- 2月11日 東近江市誕生記念式典を開催
- 12月1日 東近江スマイルネットが開局

## 2007 (平成19年)

- 3月1日 市の花「ムラサキ」・市の木「イロハモミジ」を選定
- 4月1日 ちょこっとバス・ちょこっと号出発式
- 7月1日 鈴鹿の里コミュニティセンターを開設

## 2008 (平成20年)

- 5月1日 ブックスタート事業を開始
- 7月28日 百済寺境内が国史跡に指定

## 2009 (平成21年)

- 2月27日 第2代市長に西澤久夫氏が就任
- 3月31日 政所小学校が閉校
- 10月8日 発達支援センターが完成

## 2010 (平成22年)

- 4月8日 箕作小学校が開校
- 10月16日 布引グリーンスタジアムが完成

## 2011 (平成23年)

- 3月11日 東日本大震災が発生し、給水などの支援活動を実施
- 3月26日 国道421号石樽トンネルが開通
- 3月27日 甲津畑小学校が閉校
- 4月1日 市内6商工会が合併し、東近江市商工会が発足



市の花「ムラサキ」



市の木「イロハモミジ」



ちょこっとバス・ちょこっと号出発式(2007年)



### ブックスタート事業を開始(2008年)

乳幼児健診(4カ月児健診)時に絵本をプレゼント。赤ちゃんとお保護者がゆっくり向き合って絵本を開くことの大切さを伝え、楽しく心触れ合う時間を持つきっかけづくりとして継続して取り組んでいます。



発達支援センターが完成(2009年)



### 布引グリーンスタジアムが完成(2010年)

日本陸上競技連盟第三種公認の競技場として完成。市民の利用はもとより、国・県規模やプロの大会も開催され、レベルの高い競技を間近で見ることができます。また、スタンド下には防災備蓄倉庫や防災トイレなどを備え、広域防災拠点としての役割も果たしています。

**全国初「見守りおむつ宅配便」(2016年)**

乳児を養育する保護者へ育児経験のある宅配員がおむつなどを宅配することで、家庭の見守りや育児不安の解消、必要なサービスや支援者へつなぐとともに、育児世帯の経済的負担を軽減します。



**雪野山古墳が国史跡に指定(2014年)**

平成元年9月、雪野山古墳で未盗掘の竪穴式石室が見つかり、古墳時代前期(4世紀前半)の古墳であることが判明。当時のこの地域の政治・社会状況を知る上で重要な事例であることから、国史跡に指定されました。



**永源寺と奥永源寺の山村景観が日本遺産に追加認定(2017年)**

鈴鹿山脈の懐深く、琵琶湖の最初の一滴が生まれる愛知川の源流域奥永源寺。鎌倉時代に建立された臨済宗永源寺派大本山永源寺と政所茶や木地物生産などの伝統が育まれてきた山村景観が追加されました。



国選択無形民俗文化財に選定される八日市大風の名称を東近江大風に改名(2012年)

**2012(平成24年)**

- 2月1日 八日市大風の名称を東近江大風に改名
- 3月22日 蒲生給食センターが完成
- 10月1日 東近江行政組合消防本部と愛知郡広域行政組合消防本部が統合

**2014(平成26年)**

- 3月18日 雪野山古墳が国史跡に指定
- 5月7日 市役所新館が竣工し業務を開始



伊庭の水辺景観

**2015(平成27年)**

- 2月11日 東近江市制10周年記念式典を挙行 中村功一氏、中路融人氏に名誉市民の称号を贈呈 東近江市民憲章を制定
- 4月24日 日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」として、「伊庭の水辺景観」と「五個荘金堂の町並み(近江商人屋敷)」が認定
- 8月6日 湖東学校給食センターが完成
- 9月25日 鈴鹿10座を選定
- 10月10日 道の駅「奥永源寺溪流の里」がオープン
- 11月20日 能登川コミュニティセンターが完成



道の駅「奥永源寺溪流の里」がオープン(2015年)

**2016(平成28年)**

- 3月29日 一般社団法人八日市まちづくり公社を設立
- 4月17日 中路融人記念館が開館
- 7月4日 全国で初めて見守りおむつ宅配便をスタート



**県内初の地域商社「株式会社東近江あぐりステーション」を設立(2018年)**

近畿最大の農地で生産する東近江市産の農産物の販路拡大と農家の安定経営を目指して設立 新鮮でおいしい地元農産物を地域の小売店等に安定して流通させ、地産地消を推進しています。

**2017(平成29年)**

- 2月27日 第4代市長に小椋正清氏が就任(2期目)
- 3月24日 東近江市中心市街地活性化基本計画が内閣総理大臣の認定を受ける
- 4月28日 日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」に「永源寺と奥永源寺の山村景観」が追加
- 6月3・4日 本市で「びわ湖東近江SEA TO SUMMIT」を初開催



保健子育て複合施設ハピネスが開所(2018年)

**2018(平成30年)**

- 4月18日 県内初の地域商社「株式会社東近江あぐりステーション」を設立
- 4月21・22日 ももクロ春の一大事 2018 in 東近江市 ~笑顔のチカラ つなげるオモイ~を開催
- 10月1日 保健子育て複合施設ハピネスが開所

**東近江市中心市街地活性化基本計画が内閣総理大臣の認定を受ける(2017年)**

近江鉄道八日市駅周辺の中心市街地にぎわい創出と商業の活性化を図るため、「東近江市中心市街地活性化基本計画」を策定し、国の認定を受けました。ビジネスホテルの開業、古民家や空き店舗などを活用した飲食店の出店、延命新地地区の風情ある街なみを形成する修景整備、観光交流施設や分譲マンションを併設した複合ビルの開業など、中心市街地の活性化を進めています。

**2013(平成25年)**

- 2月27日 第3代市長に小椋正清氏が就任
- 4月1日 蒲生病院が蒲生医療センターに移行
- 12月22日 名神高速道路に蒲生スマートインターチェンジが開通



**名神高速道路 蒲生スマートインターチェンジが開通(2013年)**

東近江地域における商工業の活性化や一帯の観光事業の拡大など、地域活性化を図ることが期待され開通しました。



聖徳太子1400年悠久の近江魅力再発見委員会発足式



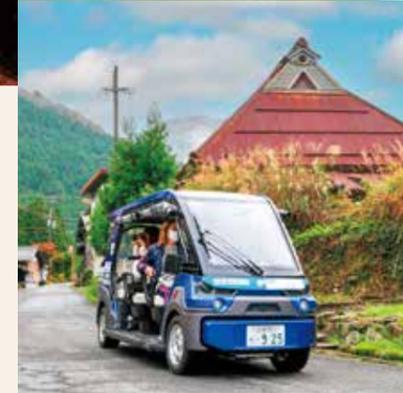
**聖徳太子1400年悠久の近江魅力再発見委員会を発足(2020年)**  
聖徳太子の伝承が数多く残る東近江地域。聖徳太子薨去1400年を迎え、神社・寺院をはじめ官民連携の委員会を立ち上げ、令和4年5月から約2年間、聖徳太子にゆかりのある社寺の秘仏の御開帳やライトアップのほか聖徳太子をテーマにした創作ミュージカルなど、地域の魅力を発信するさまざまな取組を行いました。



**「東近江市小椋谷」が林業遺産に認定(2019年)**  
東近江市小椋谷(君ヶ畑町、蛭谷町、政所町、箕川町、黄和田町、九居瀬町)に伝わる木地師文化が、滋賀県初の林業遺産に認定されました。木地師の歴史や文化、往来手形などの貴重な資料や道具類も残り、現在も木地師にまつわる祭りや行事が受け継がれている点が評価されました。



布引グリーンスタジアムの大型電光掲示板を整備(2021年)



**「自動運転サービス」が奥永源寺地区でスタート(2021年)**  
道の駅「奥永源寺溪流の里」を拠点とした自動運転サービス6人乗りの車両は、観光客や地元住民にとって欠かせない移動手段となっています。令和5年には、一般公募により愛称を「けい流カー」に決定しました。

## 2019(平成31年・令和元年)

- 5月28日 「東近江市小椋谷」が林業遺産に認定
- 5月29日 「あいとう直売館」が「直売所甲子園2019」のイベント部門でグランプリを受賞
- 7月1日 JR能登川駅開業130周年
- 9月30日 東近江市制記念日(2月11日)を制定
- 11月3日 井村裕夫氏に名誉市民の称号を贈呈
- 11月15日 伊庭御殿跡が国史跡に指定

## 2020(令和2年)

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、イベントや経済活動への厳しい規制が始まる。
- 1月24日 道の駅「あいとうマーガレットステーション」が国土交通省の重点道の駅に選定
- 8月30日 東近江市江州音頭会館がオープン
- 9月26日 能登川アリーナがオープン
- 10月1日 近江鉄道桜川駅が開駅120周年
- 10月26日 聖徳太子1400年悠久の近江魅力再発見委員会を発足し、さまざまな事業を実施(2023年まで)
- 12月17日 近江鉄道沿線地域公共交通再生協議会で、近江鉄道線の存続に向けた上下分離方式への移行が決定

## 2021(令和3年)

- 2月27日 第5代市長に小椋正清氏が就任(3期目)
- 4月3日 布引グリーンスタジアムに大型電光掲示板を整備
- 4月23日 「自動運転サービス」が奥永源寺地区でスタート
- 6月28日 女子野球タウン連携協定を締結
- 7月17日 新型コロナウイルスワクチン個別接種が市内の医療機関で開始
- 7月24日 蒲生医療センターにがん診療棟(放射線部門)が完成

## JR能登川駅開業130周年(2019年)



戦後間もない駅舎前



昭和50年前後



平成9年ごろ



新たに西口が整備された現在の能登川駅



**蒲生医療センターがん診療棟(放射線部門)が竣工(2021年)**  
地域内のがん治療の充実を図ることを目的として、蒲生医療センターに、がん診療棟を整備。最新のPET-CTおよびリニアックを導入するとともに、放射線診断専門医による診療を開始しました。

### トピックス 地域でつくる総合病院

患者が急性期から回復期を経て自宅に戻るまで切れ目ない医療体制を構築するため、「地域医療連携推進法人東近江メディカルケアネットワーク」(東近江市・日野町・竜王町、東近江医師会、医療法人、学校法人などで構成)を設立して地域の医療機関の特性をいかした連携や診療機能の強化を図っています。また、医療や介護従事者を育成する学校法人の参画で将来にわたり安定的な人材の確保にもつなげています。



伊庭御殿跡が国史跡に指定(2019年)

## 都市計画道路小今建部上中線(聖徳工区)が開通(2023年)

開通により、中心市街地へのアクセス向上や交通の円滑化につながるほか、市内の慢性的な渋滞緩和等が期待されます。



## 2022(令和4年)

2月1日

能登川地区に新しいJR垣見隧道が開通

3月4日

東近江市消防団が最高荣誉である日本消防協会特別表彰「まとい」を受賞

3月22日

百済寺本尊の木造十一面観音立像が国の重要文化財に指定

4月1日

地域医療連携推進法人東近江メディカルケアネットワークが設立

4月9日

眼科治療の充実のため能登川病院にアイセンターを開設

5月21日

近江の聖徳太子魅力発信事業オープニングセレモニーを実施

7月1日

ガリ版伝承館で「エジソンからの手紙」が発見され、一般公開

## 2023(令和5年)

新型コロナウイルス感染症の位置づけが新型インフルエンザ等感染症(2類相当)から「5類」へ移行し、厳しい規制が解除される。

本市発祥の飛び出し坊や生誕50周年

1月17日

一般社団法人近江鉄道線管理機構が設立

4月1日

近江鉄道八日市駅前に観光交流施設がオープン

4月13日

都市計画道路小今建部上中線(聖徳工区)が開通

4月26日

東近江市布引の森がオープン

## 近江鉄道線全線が「公有民営化方式による上下分離」に移行(2024年)

存続の危機にあった近江鉄道の施設や設備を県と沿線市町が管理し、株式会社近江鉄道が運行を担う「公有民営方式による上下分離」で再出発。今後の公共交通の在り方を示す先進的な取組として全国から注目されています。



## 2024(令和6年)

2月26日

臨済宗永源寺派大本山永源寺が「CJPFアワード2024」ムービー部門でグランプリ受賞

4月1日

近江鉄道線全線が公有民営方式による上下分離の運行形態へ移行

不登校対策として校内教育支援センターを市内16校に設置

滋賀学園高等学校が看護師養成課程を新設

びわこリハビリテーション専門職大学が地域連携の拠点として近江鉄道八日市駅前に八日市キャンパスを開校

8月

滋賀学園高等学校野球部が全国高等学校野球選手権大会でベスト8進出

9~12月

第79回国民スポーツ大会の競技別リハーサル大会を開催

10月21日

「東近江市建部いきものの水路」が環境省の自然共生サイトに認定

## 2025(令和7年)

東近江市制20周年を記念したさまざまな事業が市内で開催される。

1月5日

市制20周年を記念し、新春マラソン大会を開催

2月11日

東近江市制20周年記念式典を挙行  
川瀬重雄氏、小嶋太郎氏に名誉市民の称号を贈呈



## 能登川地区に新しいJR垣見隧道が開通(2022年)

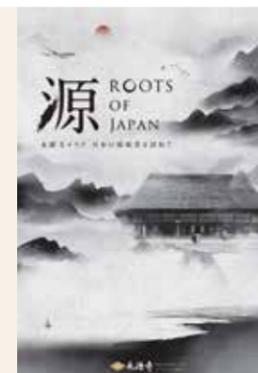
狭小で通行困難なため長年の懸案事項となっていたJR琵琶湖線(東海道本線)の高架下を通る新しい隧道が完成。緊急車両や大型車両の通行が可能となり、JR能登川駅の東西を結ぶ道路として安全性と利便性が大きく向上しました。

## 新たな環境施設として、「布引の森」がオープン(2023年)

布引の森は、布引丘陵に位置する広さ9.7ヘクタールの里山。起伏のある森の中を巡ることができる遊歩道があり、豊かな里山の自然を体感できます。

## トピックス 河辺いきものの森

2002年にオープンした愛知川沿いの河辺林に位置する、広さ15ヘクタールの里山。草原やケヤキ林、竹林、水辺など変化に富んだ自然と触れ合えます。本市では、2つの森のそれぞれの特徴をいかし、多くの人に里山の魅力を伝え、川や山へのつながりをいかした環境教育、体験学習などを行っています。



## 「CJPFアワード2024」ムービー部門で大本山永源寺がグランプリ受賞の快挙(2024年)

大本山永源寺が制作した動画「源 ROOTS OF JAPAN」永源寺エリア 日本の原風景を訪ねて」が内閣府の「CJPF(クールジャパン官民連携プラットフォーム)アワード2024」ムービー部門でグランプリ受賞の快挙。今後ますます大本山永源寺の観光面での魅力や価値が高まることが期待されます。